

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI



デイトナが提案する
新しい建築のカタチ

DHXL
DAYTONA HOUSE×LDK

Monthly
Theme

3スパン×3スパンの正方形タイプ登場 ガレージアパートが生む新感覚

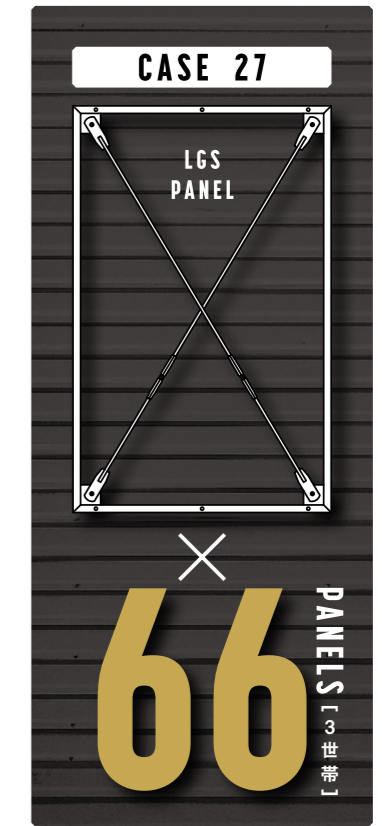
土地形状にフレキシブルに対応するために、従来の奥行き重視型のGLBに加えて、新たに登場した正方形タイプのガレージアパートです。

デイトナハウスは、スタート当初から、BASE.という言葉の意味を考えながら、新しい建築のカタチと生活について考えてきました。この、BASE.には土台や基礎という意味もありますが、ここでは拠点や基地という意味合いで使っています。アクティブな遊動生活。その出撃基地で断続的に楽しい人生にアタックするためのベースキャンプ。私達は、そういった住む人が、チャレンジングで創造性溢れる生活を送れるような建築を目指しています。

もちろんこの出撃とは外に遊びに行くだけとは限らず、DIYやメンテといった作業や、イメージの世界を旅することも大事な要素です。ガレージアパートGLBの原型は、このようなコンセプトで開発し、オリジナルの形状は、世田谷ベース増築時のカタチを踏襲したものです。世田谷ベースでは奥行きを重視した設定でしたが、今回は敷地形状やクルマの幅を考慮した、間口3スパン×奥行き3スパンのニューバージョン。敷地形状の様々な縦横比率に

対応できるようになっています。

プランは至ってシンプル。奥行きが従来型から1スパン縮小した分、間口が3スパンに広がり、らせん階段をガレージ空間の外に設置できるようにしました。これによって大型車を格納しても乗り降りが楽にできるスペースを確保しています。また、デイトナハウスの存在が空間に更なるメリハリと鋼鉄素材感の喜びをもたらしています。毎日、朝日に照らされた階段を下りて、さあ出撃です！



What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋遣いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。“柱”と“梁”と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分りやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

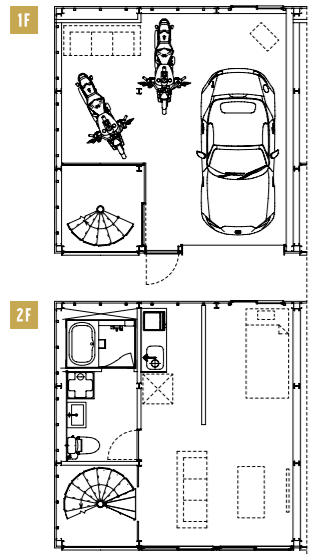
www.daytona-house.com

● INFORMATION
LDKinc.

代表: 玉田 敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデューサー会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

FLOOR PLAN



2F居室の内部イメージです。ベッドスペースからリビングスペースを見ているカット。適度な艶消し黒の骨組みの露出で醸し出されるハードボイルド感とインナーグリーンが呼応して賃貸住宅とは思えない愛着の空間になります。天井、床下、外壁面といずれも高性能外断熱で居住性もばっちりです。

2F Interior



1F Interior

ガレージ空間。左奥に見える一本貫かれた分解式らせん階段「ダイナソーボーン(恐竜の背骨)」の艶消し黒の素材感と愛車のコントラストがたまらない。オリジナルの棚金物「FASブラケット」を多用して自分オリジナルのガレージ空間を演出したい。毎日の出撃シーンを想像してみてください。

シンプルな正方形プランが新鮮なニュータイプのGLB。クルマ1台+バイク2台が楽々格納できる。らせん階段で貫かれた上下階の一体感がメゾネットであることを実感させてくれます。思い切って水まわりを1Fに持っていけば、居住スペース重視のプランにもなります。余分な導線や廊下が一切ない合理的なプランです。

Text/Atsushi TAMADA Photo/Takaaki MIURA

デイトナ不動産

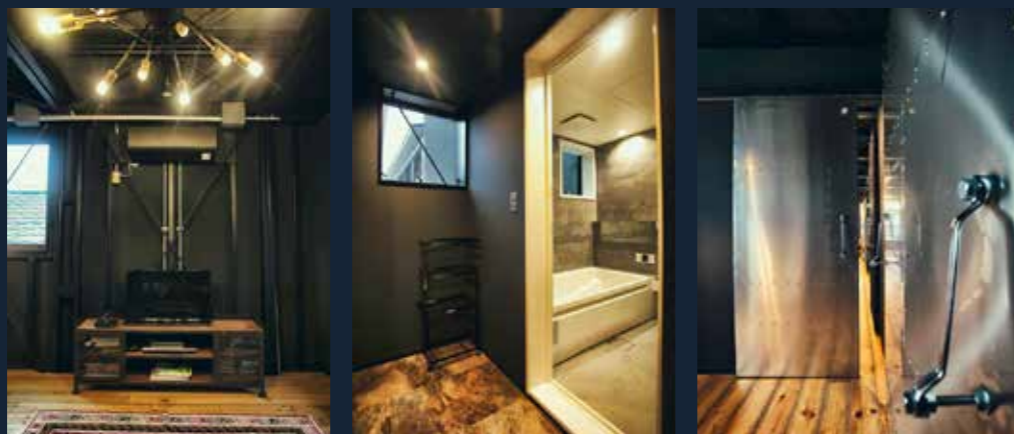
OWNER

東京都大田区
楠川浩之さん

合理性と秀逸なフォルムの合一
東京の商店街に建つ都市型ガレージハウス



1 / LGSのブレースを横目にリビングを望む。住宅の施主であるご夫妻には今年初めに赤ちゃんも誕生。こだわりぬいて完成させた注文住宅で子供と過ごす暮らしは、最高に幸せとのこと。2 / オーナーが自ら探してきたインダストリアル系のロッカーを配置した玄関まわり。このロッカーがびっぴり取まるように設計したというこだわりようです。ちよこんと正面にあるヘルメットもかわいい。3 / 施主様のオリジナル製作アルミのハンガードア。黒い壁に鈍い光沢感がたまらない。4 / 浴室の横にある脱衣室までブラックウォールの徹底ぶり。5 / エアコンをDIYで黒く塗装し、電線配管もブレースとともにシンメトリーに配置したテレビスペース。



艶消し黒の鉄骨を露出させて、ハードボイルド感覚全開のガレージハウスが遂に完成しました。狭い土地でも建築可能で、クルマ好きの生活にもフィットするデイトナハウスならではの新しい都市型住宅です。

この家の特長は、何と云っても家全体をブラックに統一したこと。その決め手は、通常のチャコールグレーではなく、「ブラックウォール」と呼ぶ黒い壁を採用したこと。これにより、異なるトーンの黒の中においてグラデーションが生まれるのです。壁の色が黒いと鉄骨の素材感がすすんでしまふと思いきや、むしろ逆。黒の濃淡が鉄骨の骨組みの力強さと素材感を浮き彫りにして、シックなメリハリを出すのです。特に効果が発揮するのが夜の表情。暖色系の照明の陰影で浮き立つ黒の鉄骨。インテリアデザインの素養のあるこの家のオーナーは、そこにラフな木質系や、生成りの布系など柔らかな素材感を巧みに取り合わせて、魅力を更に倍増しています。

このような都市型住宅を計画する際は、土地形状の吟味がとても大切です。この土地の間口は2間半、1間は畳一枚分の長さ。レッカー車が敷地に乗り込んで奥から順に鉄骨を組み上げていける最少寸法です。土地探しの段階から、施工のポイントもチェックしながら計画を進めました。

鉄骨の組み立てにも工夫が必要です。3DのCGで1日ごとの鉄骨建て方の推移を表現して、工場での出荷段階から仕分けをしておき、現場には1日の組み立て分のみ搬入。鉄骨製作工場にこの緻密なプロセスを取り入れることで都市型ガレージハウスの建築が可能になるのです。

立地や工事条件によって、費用は多少変わってきますが、都市部でデイトナハウスを建てたいと思ってる方は気軽にお問い合わせください。



鉄骨の素材感とブラックウォールで構成したメインベッドルームは、武骨さと優しさの絶妙に同居。永い間、愛着が持続する飽きのこない空間となっています。照明のトーンを落とせば、鉄骨の表情は更に変化。ここでもエアコンは施主様オリジナルの黒色塗装、通りに面した明るい部屋の大開口にフィルター役目をするブラインドのセレクトがとても重要。



3Fのルーフバルコニー。壁面の凹凸の奥行きと、均等配列のブレースが外観を印象的にする意匠効果がうれしい。加えて屋根つきのバルコニーの便利さは捨てがたい。どうしてもここでBBQがしたくなる。オリジナル製作の手すりの鉄感も大事な要素。



Text/Atsushi TAMADA

お待たせしました!

Daytona不動産
NEWS 01

出雲のモーターホテル“OCEAN BASE HAGANE”が8月初旬オープン決定! 詳しくは予約サイトへ

かねてから建築中で、Daytona不動産でも度々経過をお知らせしてきた、海辺のモーターホテルがよいよ8月初旬にオープンします。客室は4部屋。グランピング形式でグループ宿泊が可能です。夕食はBBQセットを取り揃えていますし、事前に申し込みれば地元の食材、肉や野菜、日本海の海の幸なども予約可能です。海沿いを仲間とツーリングして「OCEAN

BASE-HAGANE」に到着。オープンデッキでBBQ、Daytonaプロデュースのクラフトビール「BREW BASE」で乾杯。思わず大きな声で叫びたくなるような最高のひと時を過ごせます。

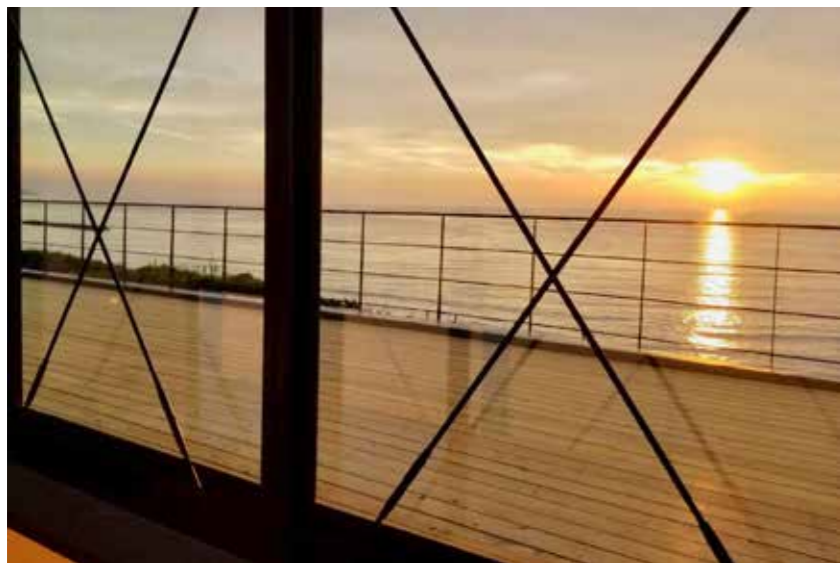
このモーターホテルが立地する多伎海岸は出雲の海岸の西の端に位置します。東の端には有名な出雲大社があります。いかにもパワースポット。古代人の

遺跡も多数発掘されている場所ですから、自然のエネルギーが充満している場所であることは間違いのないと思います。オープンデッキから眺める日本海と水平線に沈む夕日は圧巻です。“西方浄土”という言葉がありますが、水平線の先に争いのない夢の国が存在するという古代人の幻想が思わず頭をよぎるような瞬間を味わえます。ここはサーフィンのスポットとしても有名でOCEAN BASE-HAGANEでもサーフボードのレンタルや最近流行のSUPの教室も行う予定。SUPヨガで海に沈む夕日と静かな波を感じながら瞑想してみたいいかがでしょうか?

この建物もDaytonaハウスの特長である高床式を採用しています。海から見た時にふわりと浮かび上がったような建物のフォルムは、他に実例のない不思議で魅力的なものです。夕日を浴びて浮かび上がる姿は脳裏に焼き付いて消えません。道路側から見た姿も軽快感と重厚感の絶妙なバランス。性能のいい乗り物に感じるイメージそのものなのです。

OCEAN BASE-HAGANEのお申し込みは、専用WEBサイトからお願いします。

2Fの寝室前のオープンデッキから望む日本海独特の夕日。ここで仲間とのBBQは人生最良のひと時を約束してくれます。波の音を聞きながら眠り、波の音で目を覚ます客室。静かな夏の日。荒れる秋から冬にかけての海。いろんな表情が楽しめます。



DAYTONA HOUSE×LDK山陰 0853-25-2272 ob-hagane.com

Daytona不動産



兵庫県相生市でオープンハウスが8月末まで実施中 高床式ガレージ住宅を体感せよ

兵庫県相生市に完成した高床式平屋「Spiky-flat」のモデルハウスがこのほどオープンしました。
8月末まで随時見学可能。旧車やカスタムバイクが終結した夜の撮影会も圧巻です。

足立区のガレージアパート“BLACK HANGAR 2312” 10月初旬のオープンに向けて先行入居募集中

快調に工事が進行している東京都足立区血沼のGLB 6世帯。10月初旬に入居開始と決定しました。それに先立って、専用WEBサイトでの入居申し込みを開始しています。

呼び名も新たに「BLACK HANGAR 2312 (以下BH-2312)」と決定しました。その名の通り、漆黒の格納庫をイメージしてデザイン。実際にガレージや居室部分の内壁が従来白色だったものを、このBH-2312ではチャコールグレーにしています。前頁の大森の都市型住宅同様にこの「ブラックウォール」を採用しています。黒のグラデーションの中に浮き立つ艶消しの鉄骨フレーム。従来にも増してハードボイルドなガレージ空間になっています。写真は断熱工事の様子です。Daytonaハウスは標準仕様で写真のように「発泡ポリスチレンフォーム」という板状の断熱材を外断熱しています。これは木造のグラスウール断熱よりも格段に断熱性能がいいのです。したがって、居住性には全く問題がありません。

是非お早目に専用WEBサイトでスペックを確認してください。



ミッドセンチュリーデザインのデザイン手法を踏襲したリビングルーム。庭木をライトアップしてリビングの照度を落とせばリビング空間は昼間とは全く別の顔をもせます。インナーグリーンはモンステラ。ミッドセンチュリーデザインご用達の定番アイテムです。

このほど兵庫県相生市にDaytonaハウスオリジナルの高床式工法「Spiky-flat」で建築された平屋のモデルハウスがオープンしました。田園風景の中にふわりと浮かび上がったそのフォルムは、非常に特徴的ですが、不思議と日本の風景にマッチしています。またガレージ部分は少し高くなってバランスのいい外観を形成しています。このほどそのオープンを記念して地元自動車愛好家やバイク愛好家が集結。撮影会が開催されました。ダットサンフェアレディSR311型と初代スカイライン、いわゆるハコスカのGT-Rも到着。素晴らしい整備されたエンジンが響かせるサウンドはいつまでも聞いていたいほど素晴らしいものです。それぞれをガレージに格納しての撮影。艶消し黒の鉄骨ガレージに、この2台の名車



完全に整備されたフェアレディのエンジンルームとガルバリウム壁面の対比(上)。撮影会を終えて地元の愛好家たちで記念撮影(下)。

は笑いが出るほどびったりとマッチしていました。強調された鉄骨フレームの緊張感をオリジナル棚金物「FASブラケット」に陳列された愛着の小物たちが適度にやわらげます。この時代のクルマには表情がある。誰が見てもクルマが喜んでるよう感じるのです。住宅の内部も素晴らしいものです。特に庭に面したリビングルームはミッドセンチュリーデザインの本領を発揮した直線的な基調を採用した空間です。そこにインテリアグリーンや庭の樹木の有機的な要素があることで、長い間愛着が持続する空間性が生まれます。モダンな住居空間と鉄骨素材のガレージ空間。その中にクルマやバイクを格納する。その相乗効果こそがDaytonaハウスの作り出すポテンシャルです。このモデルハウスはそのことをフルスイングで表現しているのです。オープンハウスはロングランで公開中ですので、是非モーターライフとミッドセンチュリーデザインの融合を実感してみてください。いかがでしょうか? 詳しくは、専用HPから検索してみてください。